

Luxman

BELT DRIVE ANALOG PLAYER

PD-171AL

Owner's Manual

このたびは、ラックスマンのアナログディスク・プレーヤー PD-171AL をお求めいただきまして、誠にありがとうございます。

NHK がラジオの本放送を開始した 1925 年、錦水堂ラジオ部として創業されたラックスマンは、80 余年にわたって数多くの製品をオーディオファンや音楽ファンに届けてまいりました。その間、いつの時代にあってもオーディオと音楽を愛する人たちの熱い心は変わりませんでした。

音楽に込められたアーティストの情念を余さず忠実に再現する、そのときの感動の深さと機器への愛着の深さこそがオーディオにとっての最高の価値であると私たちは考えます。

縁あってラックスマン製品をお選びいただきましたことは、オーディオと音楽に対して私たちと同じ情熱と価値観を共有できることであると、心から嬉しく思っております。

本機を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みください。それによって本機の性能が十分に発揮され、最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただくことができます。お読みになった後は保証書、安全上のご注意と共に大切に保管してください。

末永くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

目次

| | |
|-------------------|----|
| 使用上の注意 | 1 |
| 本機の特徴 | 2 |
| お使いの前に | 4 |
| 各部の名称と用途 | 6 |
| 組立て方法 | 10 |
| 接続方法 | 14 |
| 操作方法 | 16 |
| ブロックダイアグラム | 17 |
| 規格 | 18 |
| 修理に出される前に | 19 |
| アフターサービスと品質保証について | 21 |

設置する場所

- ・ 外部からの振動を受けにくく、水平で安定した場所を選んでください。
- ・ テレビやカラーモニターの近くに本機を設置しないでください。カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

再生中は本機を絶対に動かさない

再生中に本機を動かすと針飛びが起き、再生針やレコード盤を傷つけることがあります。

本機を移動する場合

本機を移動する場合は、必ずターンテーブルを停止させレコード盤を取り外してから電源を切ってください。さらに電源ケーブル、フォノケーブルを抜いてから移動させてください。

次のような場所は避けてください

- ・ 直射日光のあたる所
- ・ 湿気の多い所や風通しの悪い所
- ・ 極端に暑い所や寒い所
- ・ 振動のある所
- ・ ホコリの多い所
- ・ 油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

上に物をのせない

本機の上に物を乗せないでください。

熱を受けないように

本機をアンプなど、熱を発生する機器の上のにせないでください。ラックに入れる場合はアンプや他のオーディオ機器から出る熱を避けるため、アンプよりできるだけ離して入れてください。

結露について

冬期などに本機を寒いところから暖かい室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、機器が結露します。結露の状態にもよりますが、本機の電源を入れて1～2時間放置し、本機の温度を室温に保てば水滴が消え、使用することが可能になります。

夏でもエアコンなどの風が、本機に直接あたると結露がおこることがあります。その場合は本機の設置場所を変えてください。

注油について

スピンドルには専用のオイルが使われておりますので、お客様で注油をしないでください。

製品のお手入れについて

- ・ 本体は通常、柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞り、汚れを拭き取った後、乾いた布で拭いてください。
- ・ ダストカバーなどのアクリル部分を強くこすると傷がつくことがありますので、ご注意ください。
- ・ アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装が傷むことがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。
- ・ 化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。
- ・ お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

修理・調整について

修理、調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービス・センターへご依頼ください。

安全上のご注意



本機は重いので、開梱や組立て、持ち運び、設置の際は充分にご注意ください。

本機の特徴

ベルトドライブ

ベルトを介することでモーター由来のノイズを減衰させ、スムーズな回転を得る駆動方式を採用。

回路構成

常に正確な回転を保つため、32bit マイコンより D/A 変換された正弦波を高出力オーディオアンプで増幅して AC シンクロナスモーターを駆動。

ストロボ・スコープ

正確な回転数調整に便利な LED 式の反射視型ストロボ・スコープを搭載。

高トルクモーター

高トルクの AC シンクロナスモーターを採用し、正確で静粛な回転を実現。

重量級ターンテーブル

精度を高めるためアルミ地金から削り出した、自重 5.0kg の重量級ターンテーブル。
慣性モーメントは約 $0.7\text{t} \cdot \text{cm}^2$ を実現。

高剛性メインシャーシ

15mm 厚のアルミ削り出し板をベースに、内部の主要部品が吊り下がるアンダースラング制振構造を採用。

大型スピンドル

安定した回転をサポートするボールベアリング仕様の大口径ポリエーテルエーテルケトン（PEEK）軸受けを採用したスピンドル。

フローティングマウント

天板への振動の伝わりを遮断するため、電源トランスとモーターをメインシャーシから浮かせて搭載。

ハイブリッド制振

筐体の底面は、共振点の分散を図った木材と金属とのハイブリッド制振構造。

大口径インシュレーター

オーディオラック等から伝わる不要振動をカットするため、材質の異なるゴムとスプリングを合体させたダンパーを採用。

メインシャーシ自体の不要振動も抑制。

LED スタイラスライト

暗所での操作時に針先を照らす脱着式高輝度LEDタイプのスタイラスライトを付属。

AC インレット

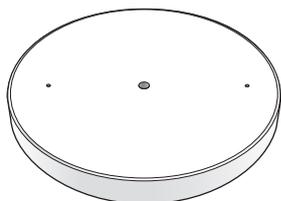
電源ケーブルの脱着が可能な AC インレット。

お使いの前に

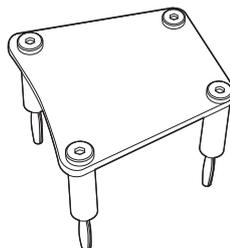
付属品の確認

次の付属品が同梱されていることをご確認ください。

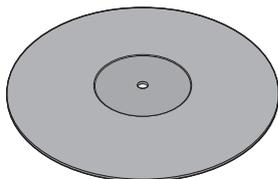
- ・ ターンテーブル



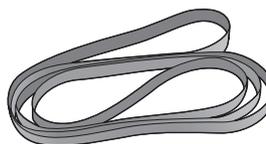
- ・ プーリーカバー



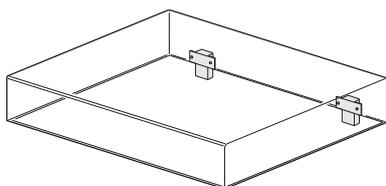
- ・ ターンテーブルシート



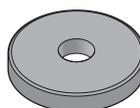
- ・ ゴムベルト



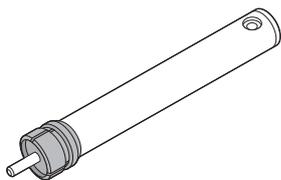
- ・ ダストカバー



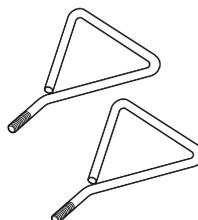
- ・ EP アダプター



- ・ スタイルスライト



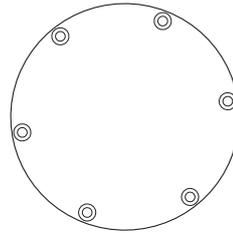
- ・ ターンテーブル取り付けハンドル (2 個)



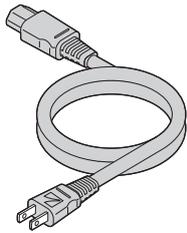
- ・アームベース取り外しレンチ (3.0mm)



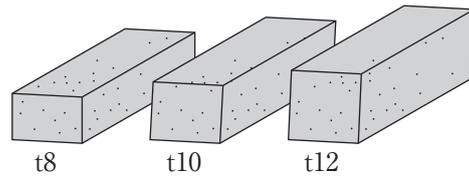
- ・アームベースカバー



- ・電源ケーブル (JPA-10000)



- ・フォノケーブル固定クッション



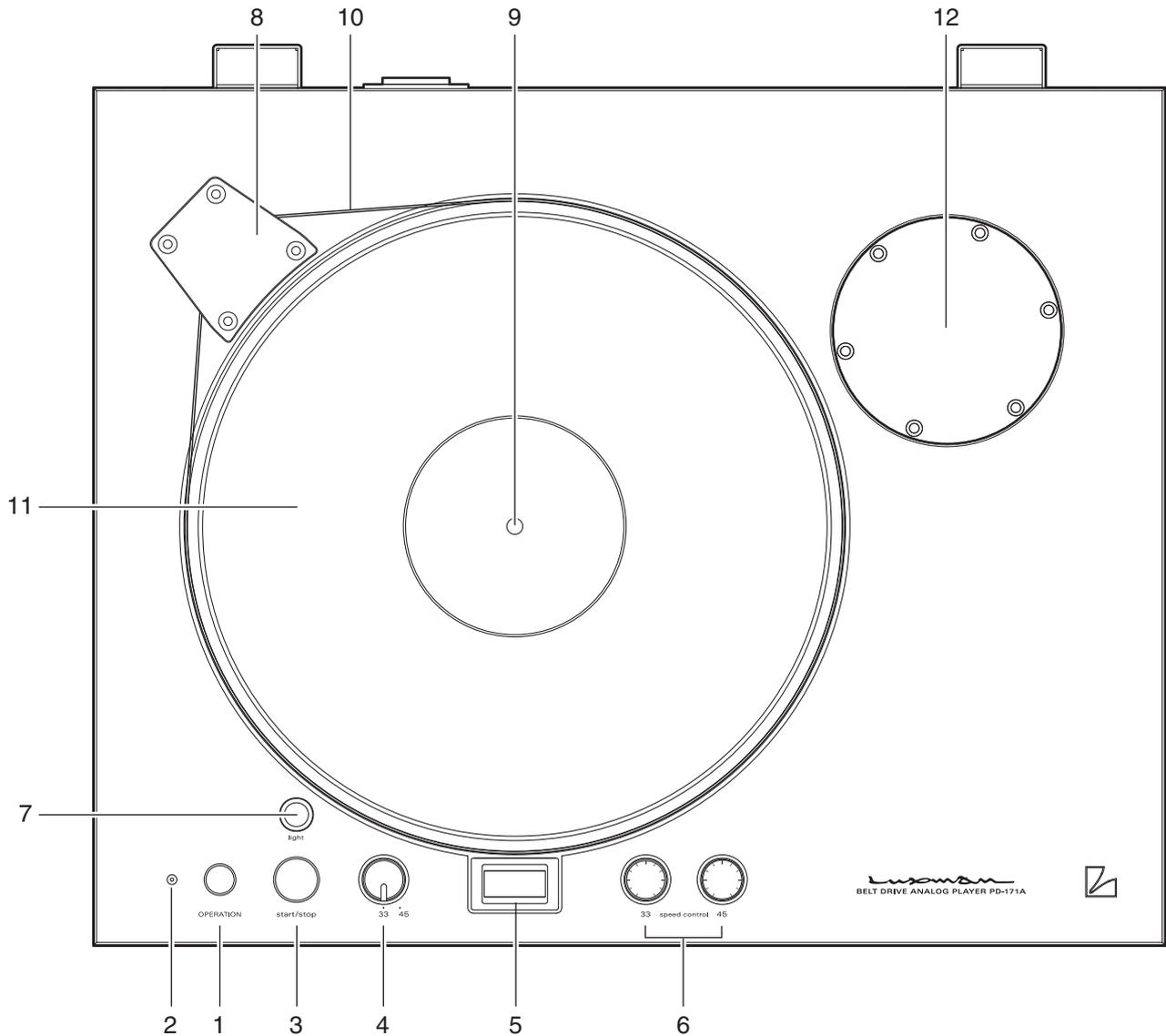
- ・スタイラスライト・コネクタ防塵キャップ
※ 出荷時は本体に取り付けられています。



- ・印刷物
保証登録書 (梱包箱添付)
安全上のご注意
サービス情報
取扱説明書 (本書)

各部の名称と用途

本体上面



1. オペレーション・スイッチ (OPERATION)

電源をオン / オフするためのスイッチです。

2. オペレーション・インジケータ

電源を入れると、このインジケータが点灯します。

3. スタート / ストップスイッチ (start/stop)

このスイッチを押すと、ターンテーブルが選択された回転数で回転を始めます。

ストップのスイッチを兼ねていますので、回転中に再度押すとターンテーブルが停止します。

4. 回転数切替スイッチ (33 / 45)

ターンテーブルの回転数を、33 回転と 45 回転にそれぞれ切り替えるスイッチです。
お聴きになるレコード盤の回転数に合わせて選択してください。

5. ストロボ・スコープ

ストロボ・スコープ内の数字 (33 もしくは 45) が停止して見えるように回転数微調整ボリュームを合わせてください。

6. 回転数微調整ボリューム (33 / 45 speed control)

33 回転 回転数切替スイッチを 33 回転に合わせて、ストロボ・スコープから見える数字 (33) が停止して見えるように調整します。
45 回転 回転数切替スイッチを 45 回転に合わせて、ストロボ・スコープから見える数字 (45) が停止して見えるように調整します。

7. スタイラスライト・コネクター (light)

部屋の照明を落としたときに手元を照らすことができます。
防塵キャップを外し、付属のスタイラスライトを取り付けてください。

8. プーリーカバー

回転するプーリーを保護するカバーです。
ターンテーブルを回転させる時には必ず装着してください。

9. センター・スピンドル

レコード盤を装着するガイド軸です。
EP 盤を演奏する場合はここに付属の EP アダプターを装着してください。

10. ベルト

モーターの回転をターンテーブルに伝えるためのベルトです。

11. ターンテーブルシート

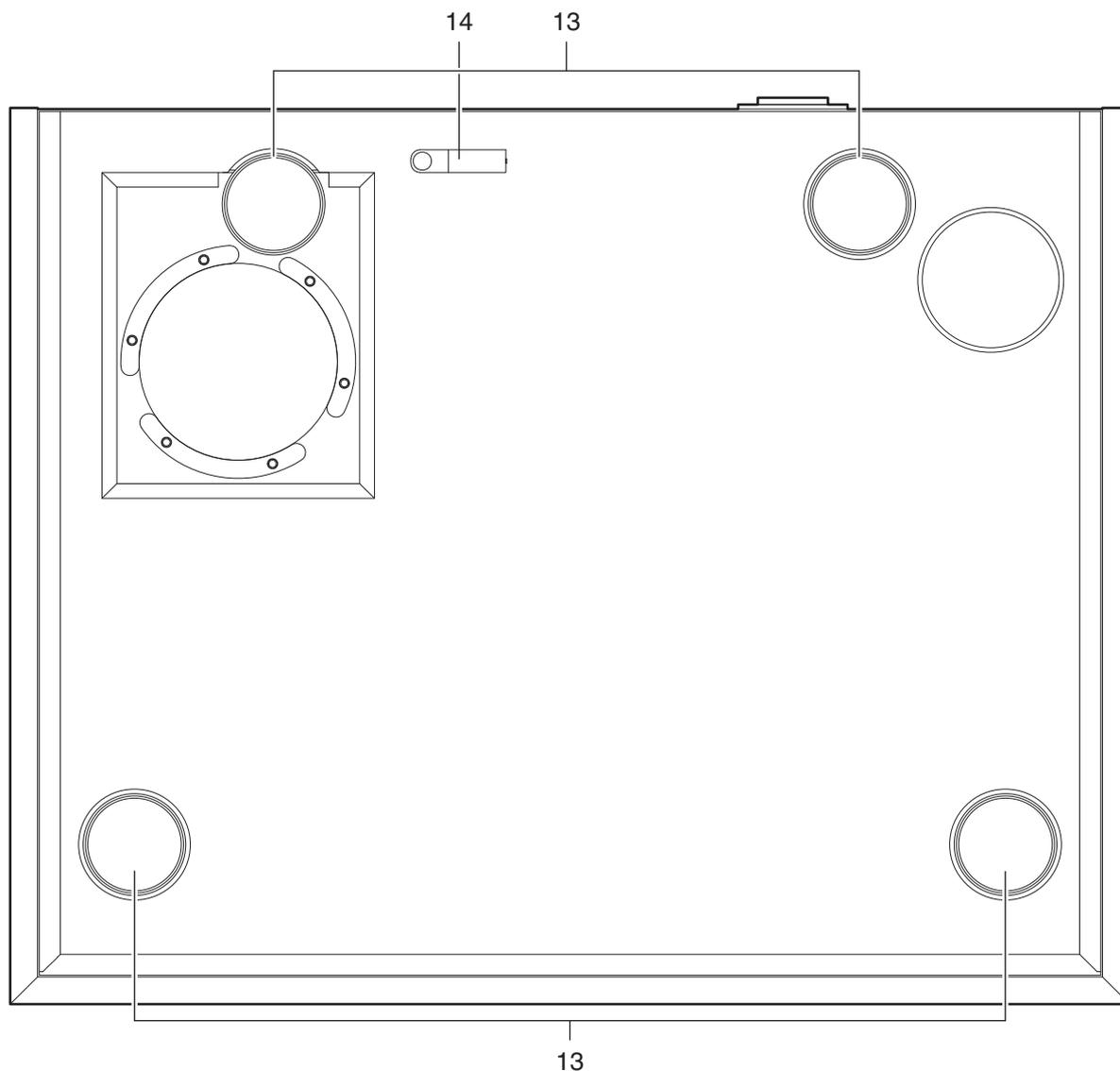
ターンテーブルの鳴きを抑え、レコード盤をターンテーブルに密着させるためのゴムシートです。

12. アームベースカバー

別売のアームベースに交換しトーンアームを取り付けます。
別売アームベースおよび適用トーンアームについては 11 ページの 4. トーンアームの取り付けを参照してください。

各部の名称と用途

本体裏面



13. インシュレーター

プレーヤー全体を支えるとともに、ハウリングや外部からの振動を吸収します。

このインシュレーターは出荷時に一番低く設定されていますが、10mmまで高くすることが可能です。

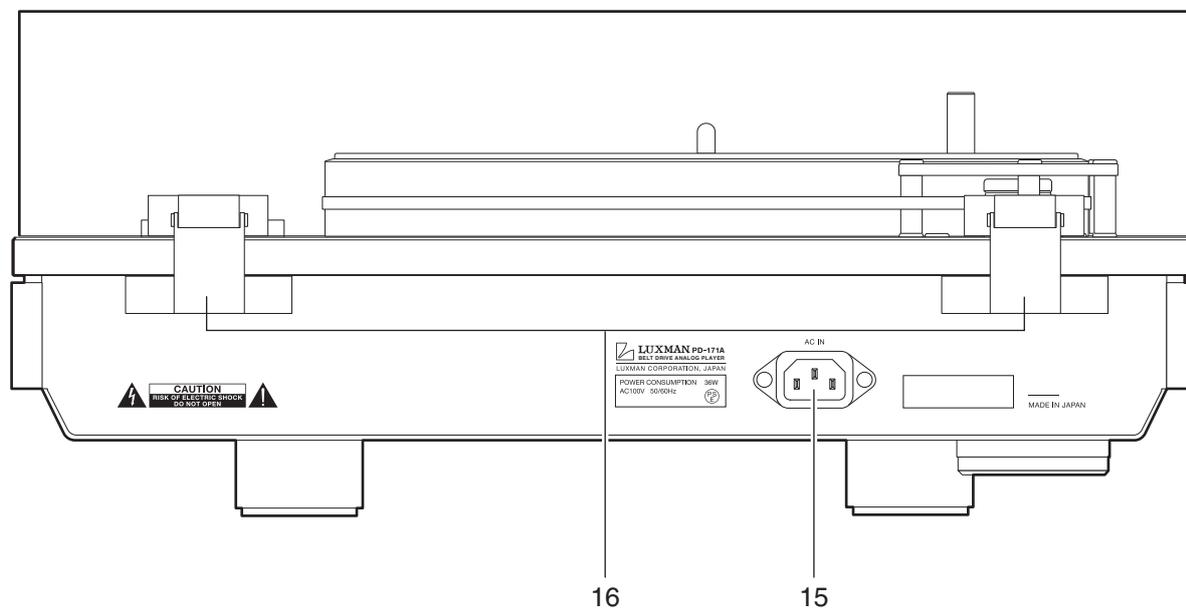
本機を水平にする時にお使いください。

14. ケーブルホルダー

フォノケーブルを固定するホルダーです。

フォノケーブル固定用クッションが3種類付属しています。使用のフォノケーブルの太さに合うクッションを選んでケーブルホルダーに貼り付けてフォノケーブルを固定してください。

本体背面



15.AC インレット (AC IN)

付属の電源ケーブル (JPA-10000) を接続して、壁のコンセントから電源を供給します。

16. ヒンジ受け

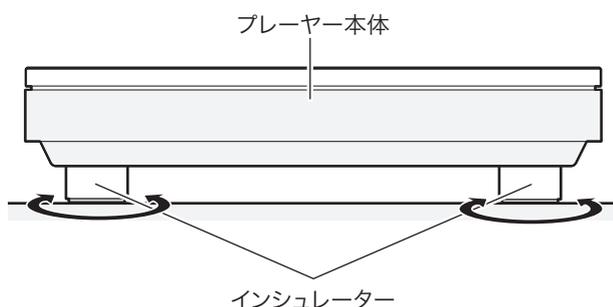
ダストカバーを取り付ける金具です。
ダストカバーのヒンジを、本体背面のヒンジ受けに差し込んでお使いください。

組立て方法

組立てが完了するまで、本機の電源を入れないでください。

1. 本体を設置する

なるべく水平なラックに設置してください。
傾きがある場合は裏面四隅のインシュレーターを回転させ、プレーヤー全体の水平バランスを調整してください。

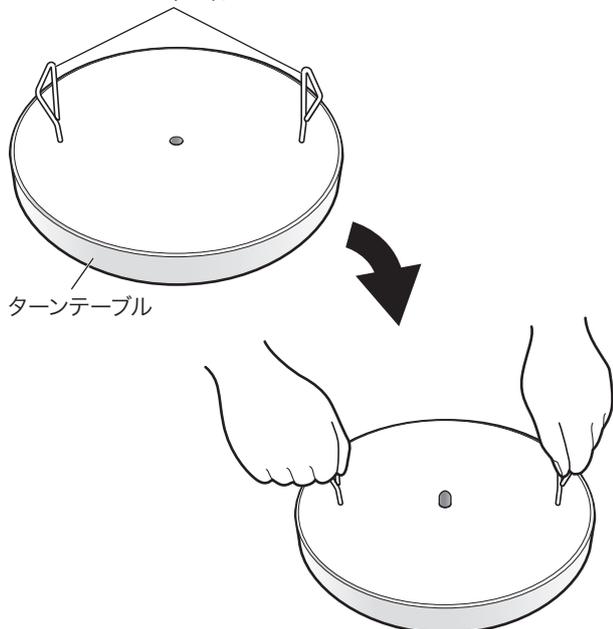


左回りで上昇、右回りで下降します。

2. ターンテーブルをのせる

付属のターンテーブル取り付けハンドルをターンテーブル上部に装着し、それを持って本体のセンタースピンドルに乗せます。
ターンテーブルは必ず両手で持ち、センタースピンドルに無理な負荷がかからないように注意しながら取り付けてください。

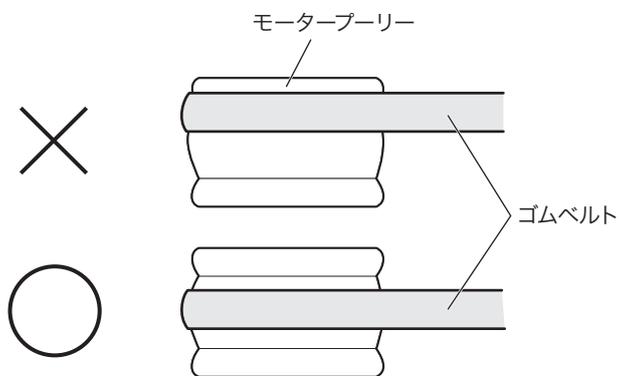
ターンテーブル取り付けハンドル



ターンテーブルは重いので、お取り扱いには充分にご注意ください。

3. ベルトをかける

はじめはターンテーブルにかけてください。その後にターンテーブルからベルトをつまんでプーリーにかけます。(ベルトには裏表はありません。)
手でターンテーブルを数回まわし、ベルトがプーリーの正しい位置にかかっていることを確認してください。



4. トーンアームの取り付け

本機には以下のトーンアームを取り付けできるアームベースが別売で用意されています。

使用するトーンアームに合わせてアームベースを購入してください。

別売アームベース一覧表

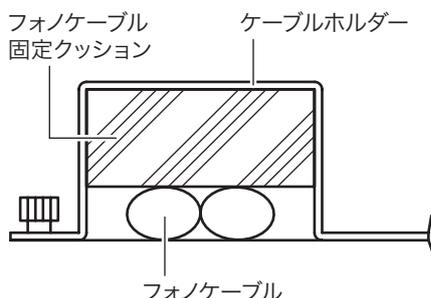
| アームベース名 | 適応トーンアーム | 付属品 |
|----------|-----------------------------|------------------------|
| OPPD-AB1 | SME : 3009R / 3010R | アームベース取り付けレンチ (3mm) 1本 |
| OPPD-AB2 | FR : FR64 / 64S / 64FX | アームベース取り付けレンチ (3mm) 1本 |
| OPPD-AB3 | SAEC : WE-308 | アームベース取り付けレンチ (3mm) 1本 |
| OPPD-AB4 | SAEC : WE407 / 23 | アームベース取り付けレンチ (3mm) 1本 |
| OPPD-AB5 | ORTOFON : AS-212S / RS-212D | アームベース取り付けレンチ (3mm) 1本 |
| OPPD-AB6 | ユニバーサル ^{注1} | アームベース取り付けレンチ (3mm) 1本 |

注1:OPPD-AB6 アームベース(ユニバーサル)はトーンアーム取り付け穴がありません。お客様のお手持ちのトーンアームが別売アームベースの適応トーンアームにないときは、このアームベースにトーンアーム取り付け穴を加工することで取り付けすることができます。取り付け穴形状、穴位置等はトーンアームの取扱説明書の指示にしたがって加工してください。

1. アームベースカバーを取り付けているネジ (6本) を付属の六角レンチで取り外します。
2. 別売アームベースにトーンアームを取り付けます。
3. トーンアームを取り付けたアームベースと、本機の見取り図の取り付け穴の位置を合わせます。
アームベースと本体の位置は別売アームベースの取扱説明書にしたがって取り付けしてください。
4. アームベースの穴に取り付けネジを入れ付属の六角レンチでしっかりと固定します。
ネジの締め付けが不足したり、浮いたりしていると音質に影響が出ますので、確実に締め付けてください。
5. トーンアームに付属のフォノケーブルをトーンアームに確実に接続します。
6. 本機に付属のフォノケーブル固定クッションでフォノケーブルを固定します。
取り付けに最適な厚みを選んで使用してください。

- ※ トーンアームの取り付け方法はトーンアームの取扱説明書をご参照ください。
- ※ トーンアームの各種調整（オーバーハング調整、ラテラルバランス調整、アンチスケーティング^{注2}調整、トーンアーム水平調整、針圧調整等）はトーンアームの取扱説明書をご参照になり調整してください。

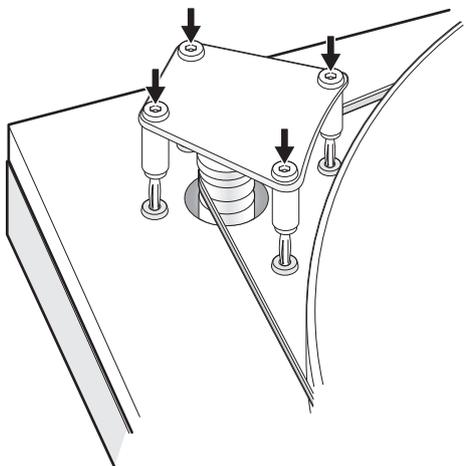
注2：アンチスケーティングはインサイドフォースキャンセラとも呼ばれます。



組立て方法

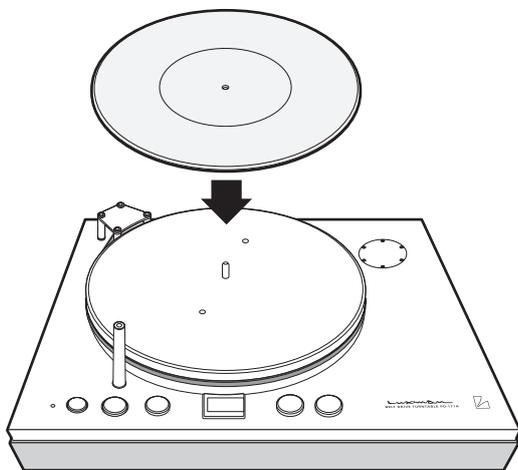
5. プーリーカバーの装着

下図の通り四隅を均等にゆっくり差し込んでください。



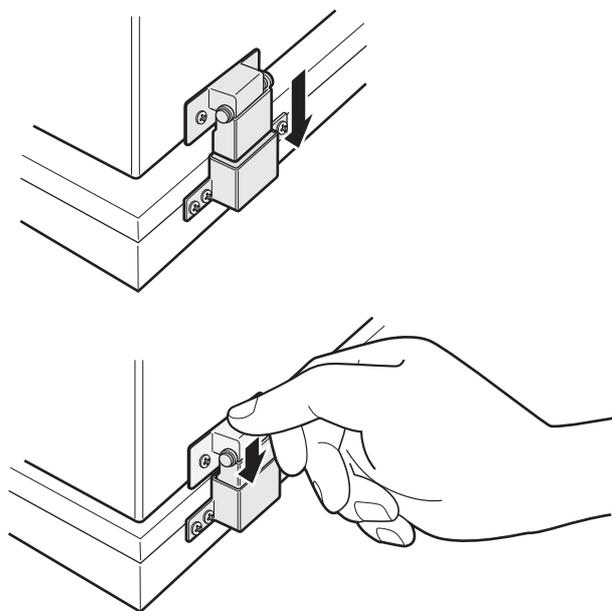
6. ターンテーブルシートの装着

中央にへコミのある面が表です。
センタースピンドルに合わせて取り付けてください。



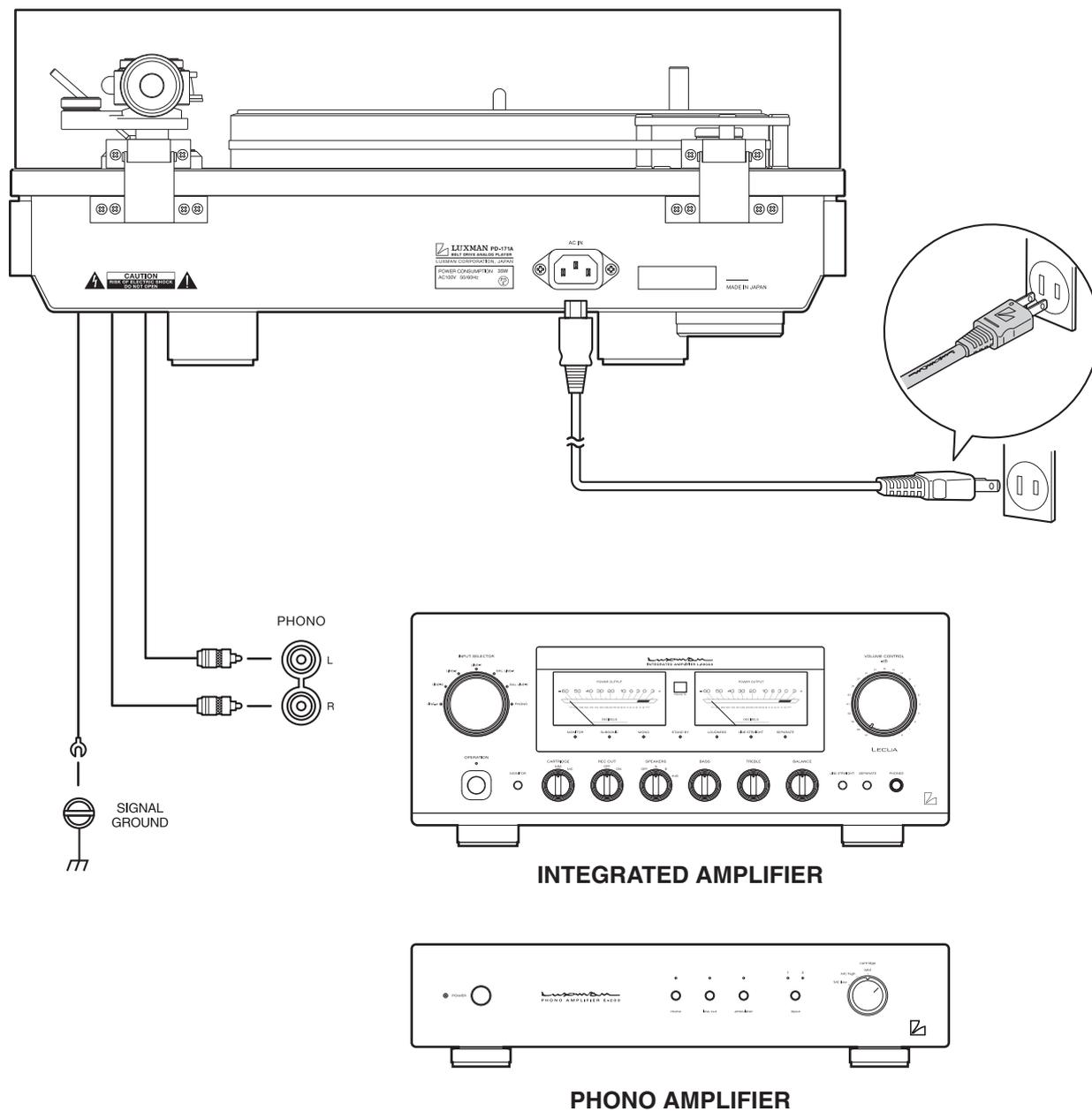
7. ダストカバーを取り付ける

ダストカバーのヒンジは差し込み型です。
本体背面のヒンジ受けの奥までダストカバーのヒンジをまっすぐに差し込んでください。



ダストカバーの亚克力部分を強く押し込むと割れるおそれがありますので、ヒンジ部分を左右同時に押し込んで差し込むようにしてください。

接続方法



イラストのトーンアームは一例です。

接続する前に

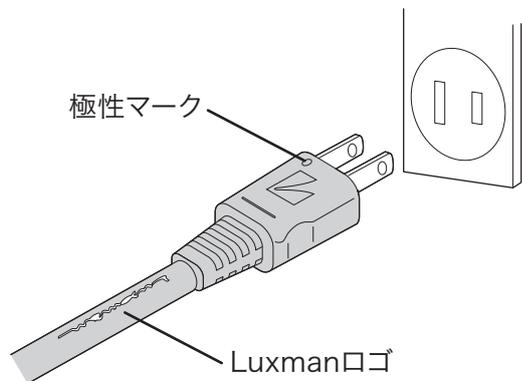
他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック部（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

接続するときは、思わぬノイズの発生による事故を防止するため、本機の電源と併用機器の電源をすべてオフにしてください。

電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、AC プラグをリスニングルームなどにある AC100V のコンセントに差し込んでください。ケーブル本体に印字された Luxman ロゴが見えるように（極性マークがコンセントに向かって左側にあるように）AC プラグを差し込むと、電源極性が正しく設定されます。

一般的に AC コンセントは、向かって左側の若干長い穴が接地用端子（W 表記）になっています。



フォノイコライザー・インテグレートッドアンプなどへの接続

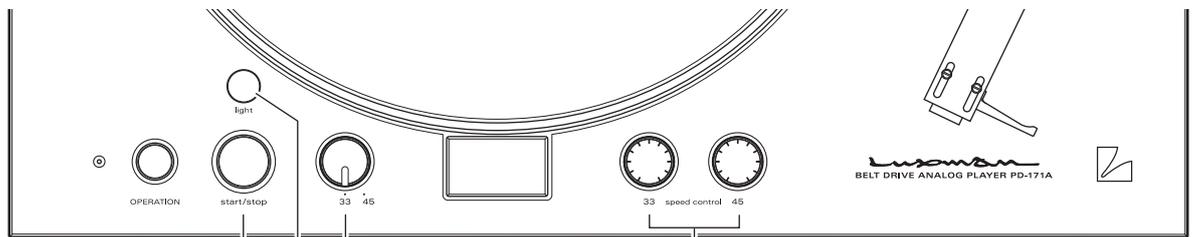
トーンアームに付属のフォノケーブルのピンプラグをフォノイコライザーやインテグレートッドアンプの PHONO 端子に接続してください。

アース用コードの接続

トーンアームに付属のフォノケーブルのアース用コードを、併用するフォノイコライザーやインテグレートッドアンプのシグナルグラウンド端子に接続してください。

接続しないと音楽信号にハムノイズが出ることがあります。

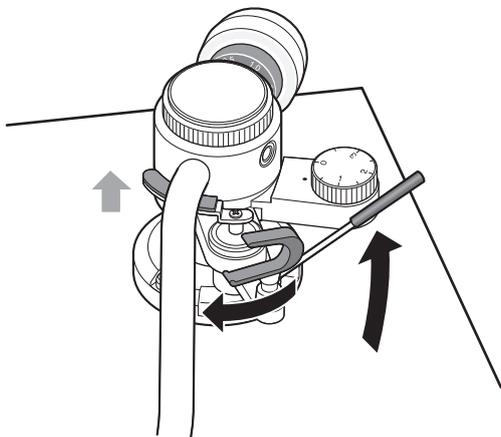
操作方法



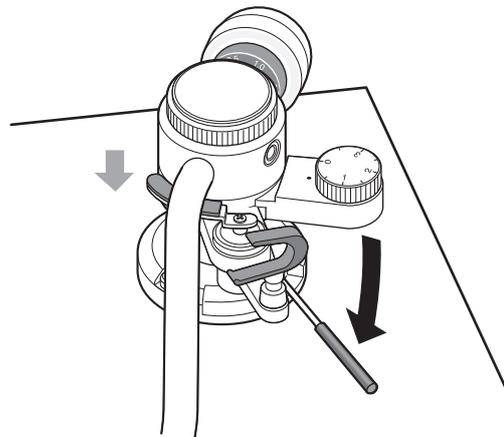
スタート/ストップスイッチ スタイルスライト・コネクター 回転数切替スイッチ 回転数微調整ボリューム

再生方法

1. 暗所での再生時など、必要に応じてスタイラスライトをスタイラスライト・コネクターに接続して点灯させます。
2. レコード盤をセンタースピンドルに合わせターンテーブルに装着します。
EP 盤は EP アダプターを使用して装着します。
3. レコード盤に合わせて回転数切替スイッチで回転数 (33 もしくは 45) をセットしてスタート / ストップスイッチを押します。
4. アームリフターを上げ、トーンアームをアームレストから外し、再生させたい位置まで移動させます。



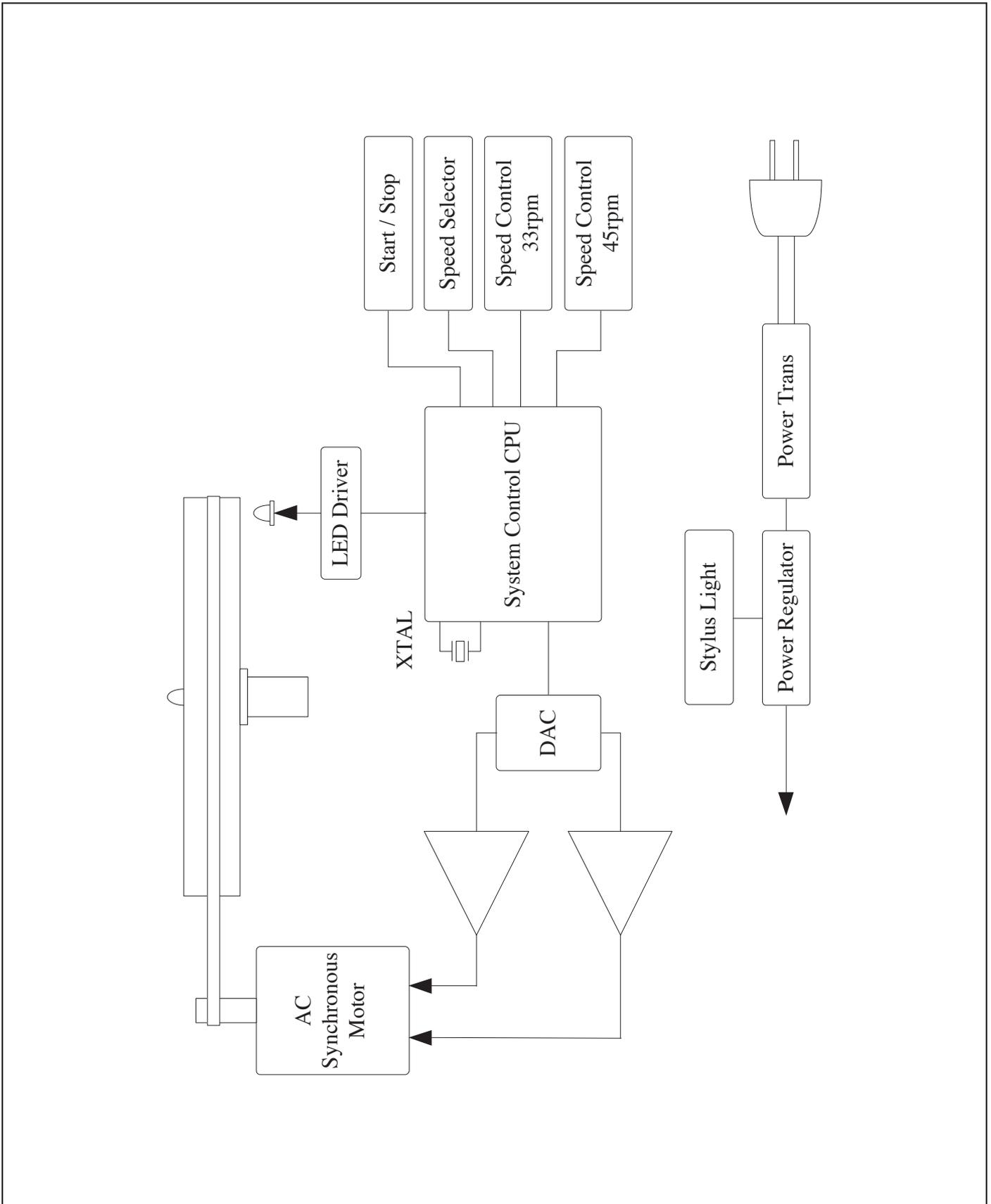
5. アームリフターを下げるとトーンアームが下がり、再生が始まります。



6. 再生が終わりましたらアームリフターを上げ、トーンアームをアームレストに戻し、スタート / ストップスイッチを押してターンテーブルを停止させます。

針先の破損やレコード盤の傷を防ぐため、トーンアームの上げ下げにはなるべくアームリフターをお使いください。

イラストのトーンアームは一例です。



規格

| | |
|-------------|---|
| フォノモーター部 | |
| 駆動方式 | ベルトドライブ方式 |
| モーター | リアクション AC シンクロナスモーター |
| ターンテーブル | 30cm アルミ材削り出し (重量 5.0kg) |
| 回転数 | 33 1/3rpm、45rpm (2 スピード切替) |
| 回転数調整範囲 | ±5% (各回転数独立調整可能) |
| ワウ・フラッター | 0.04% 以下 (W.R.M.S) |
| 付属装置ほか | |
| 付属装置 | [トップパネル部] ・オペレーション・スイッチ ・スタート / ストップスイッチ ・回転数切替スイッチ ・ストロボ・スコープ ・回転数微調整ボリューム (33 1/3rpm、45rpm) ・スタイラスライト・コネクター [リアパネル部] ・AC インレット [ボトム部] ・インシュレーター |
| 付属品 | ・ターンテーブル ・電源ケーブル (JPA-10000) ・ダストカバー ・スタイラスライト ・プーリーカバー ・ゴムベルト ・EP アダプター ・ターンテーブルシート ・印刷物 ・ターンテーブル取り付けハンドル (2 個) ・アームベース取り外しレンチ (3.0mm) ・アームベースカバー ・フォノケーブル固定用クッション (3 種類) ・スタイラスライト・コネクター防塵キャップ |
| 電源 | AC100V (50/60Hz) |
| 消費電力 | 36 W (電気用品安全法の規定による) |
| 重量 | 23.8kg |
| 外形寸法 | 492 (W) ×140 (ターンテーブル上面まで)、195 (ダストカバー使用時) (H) ×407 (背面金具 10mm 含む) (D) mm |
| 許容動作温度 / 湿度 | − 5°C ~ + 35°C / 5% ~ 85% (結露のないこと) |

※ 規格および外観は予告なく変更することがあります。

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記の表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひと通り確認してください。故障の原因がわからない場合は、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービス・センターへお問い合わせください。なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくても点検代、出張費などをいただくことがあります。

| 症 状 | 原 因 | 対 策 | 参照ページ |
|--------------------|--|--|-------|
| 電源スイッチを押しても電源が入らない | ・電源プラグが本体の AC インレットや家庭用コンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。 | ・電源プラグを確実に差し込む。 | 15 |
| ターンテーブルが回転しない | ・ベルトが正しくかかっているか。 ・電源スイッチがオンになっていない。 | ・ベルトを正しくかける。 ・電源スイッチをオンにする。 | 10 |
| ストロボが流れる | ・回転数調整が取れていない。 | ・回転数微調整ボリュームで正しく調整する。 | 7 |
| 音が出ない | ・リードワイヤーとカートリッジ、またはヘッドシェルとトーンアームの接続が不完全。 | ・リードワイヤーを確実に差し込む。プラグインナットをしめてヘッドシェルとアームをしっかりと固定する。トーンアームを確実に取り付ける。 | 14 |
| | ・フォノケーブルが正しく接続されていない。 | ・フォノケーブルを正しく接続する。 | |
| | ・フォノイコライザーやインテグレートッドアンプなどの設定や接続が正しくない。 | ・機器間の接続、フォノイコライザーやインテグレートッドアンプなどの電源、ボリューム位置、セレクターの設定などを確認する。 | |
| 音量が小さい、または大きい | ・フォノイコライザーやインテグレートッドアンプなどのカートリッジ設定が正しくない。 | ・フォノイコライザーやインテグレートッドアンプなどのカートリッジ設定をお手持ちのカートリッジの種類 (MC/MM) に合わせる。 | |
| 映像がふらつく、左右のバランスが悪い | ・プレーヤー本体が傾いている。 | ・本機を水平で安定した場所に設置する。インシュレーターをまわして調節する。 | 8、10 |
| | ・アンチスケーティングの調整が正しくない。 | ・使用しているトーンアームの取扱説明書にしたがいアンチスケーティングを正しく調整する。 | |
| | ・カートリッジが水平に取り付けられていない。 | ・使用しているトーンアームの取扱説明書にしたがい水平バランスを調整する。 | |
| 演奏スピードが正しくない | ・回転数が正しく調整されていない。 | ・レコード盤に合わせ回転数を選び、回転数微調整ボリュームで正しく調整する。 | 7 |

修理に出される前に

| 症 状 | 原 因 | 対 策 | 参照ページ |
|----------------------------|------------------------------|---|-------|
| ハムノイズ（ブーン音）が出る | ・アース線が接続されていない。 | ・アース線をシグナルグラウンド端子に接続する。 | 14～15 |
| | ・フォノケーブルが正しく接続されていない。 | ・フォノケーブルを正しく接続する。 | 14 |
| | ・ヘッドシェルとカートリッジが正しく固定されていない。 | ・ヘッドシェルとカートリッジをビスとナットで正しく固定する。 | |
| 音とびする、ノイズ（ポツポツまたはバチバチ音）が出る | ・針圧が正しく調整されていない。 | ・お手持ちのカートリッジに合わせて針圧目盛を適切値に設定する。 | |
| | ・レコード盤に傷や反り、汚れがある。静電気を帯びている。 | ・傷や反りのあるレコード盤の使用を避ける。 レコード盤を市販のクリーナーなどでクリーニングする。 | |
| | ・針先に汚れがある。 | ・針先の汚れを取る。 | |
| | ・振動のある場所に設置されている。 | ・外部からの振動により音とびすることがあるため、本機を水平で安定した場所に設置する。 | |
| スタイラスライトが点灯しない | ・スタイラスライトが確実に差し込まれていない。 | ・防塵キャップを外し、スタイラスライト・コネクタに確実に差し込む。 | 7、16 |

静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しないことがあります。

このようなときは、電源ケーブルを一度抜いて再び差し込むことで正常動作になる場合があります。

これで解決しないときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービス・センターにご相談ください。

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービス・センターまたはお求めの専門店までご連絡ください。状況に応じた出張修理または持ち込み修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもありますが、ご容赦ください。

本機の保証期間は購入日より起算して2年間（ただし、消耗品は1年間）です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無料修理させていただきます。保証登録書は、本機の梱包箱に添付されておりますので、お買い上げ販売店で、販売年月日、店名の記入捺印を受けた上、弊社に送付してください。折り返し、保証書を弊社よりお送りいたします。保証期間内の修理お申しつけの節は必ず弊社発行の保証書を添えてください。保証期間外、保証書がない場合の修理については実費でお引き受けします。

修理のご依頼、お問い合わせにつきましては、別紙のサービス情報をご覧ください。

MEMO

